

癌告知を受けて手術に臨んだ患者の術前のストレス 因子と対処方法の継時的变化

——B棟6階で手術を受けた壮年期の患者5名にアンケートを実施して——

B棟6階

○浅野真弓 西口真紀
梅田桃志美

I. はじめに

B棟6階は消化器外科病棟で主に消化器癌の手術をメインとした治療を行っている。現在、インフォームド・コンセントの上で治療が受けられるよう、医師が外来で患者さんに癌であることを告げる場合が増えている。当病棟は、乳癌は全ての患者に告知し、胃癌に対しては早期の場合は全例、進行癌でも大部分は告知を行っている。他の癌においては本人の希望、家人の意向によりケースバイケースである。

癌告知について、小島は「癌患者は、病名告知あるいは病気に対する疑惑、治療にともなう形態、機能の喪失により、心理的危機に陥りやすい」と述べている。癌告知を受けて手術に望む患者さんは、手術をすれば病気が治るという期待と術後の経過、再発への不安を抱きストレスが出現すると考える。しかし、私達看護婦が主に目前にせまる手術のみに着目し、患者さんに関わっているのではないかという疑問を抱いた。そこで今回、壮年期という社会的役割が多くなかで、告知を受けた患者さんの外来時から手術までのストレス因子、その対処方法を明らかにしたいと考え本研究に取り組んだ。

II. 研究方法

1. 期間：平成12年8月7日から9月5日まで
2. 対象：外来で告知を受け手術目的で入院となった患者さんのうち、研究への協力が得られた壮年期の患者さん5名（平均50歳）
3. 疾患：大腸癌2名、胃癌2名、乳癌1名
4. 性別：男性4名、女性1名
5. 研究方法：研究の主旨（表1）を理解してもらった後、患者さんの負担が少ないようアンケート用紙（表2、3）を用い、不明な点などにすぐ対応できるように研究者が実施した。アンケート時期は、緊張が高まる入院当日の外来、病棟に少し慣れ始める入院1週間後、手術を間近にむかえる手術前日の3回に設定した。

アンケート用紙（表2）作成においては、河野らのストレス因子を参考に10項目、ラザルスのコーピングの分類を参考に16項目の対処方法を設定した。アンケート用紙（表3）は、横にストレス因子、縦に対処方法を作成し、縦と横が交わる所にチェックできるようにした。

また、ストレスの有無や対処方法は、本来その人の性格が大きく関連していると考え、ローゼンバーグ自尊感情の尺度（表4）を用いて評価した。

Ⅲ. 結 果

手術に対するストレスの有無についてのアンケート結果（図1）を示す。どの時期においてもストレスが全くないと答えた人はおらず、多少なりともストレスを感じていることが分かった。

ストレス因子（図2）は、3回を通し退院後の事が1番多く、次いで家庭の事、仕事の事であった。手術は一時的なストレス因子となるが、癌という病気の性質上、術後の日常生活の中で今まで通りきちんと自己の役割が果たせるか否かというストレスを感じているからだと考える。

対処方法は、問題解決的対処型、情動調整的対処型、両者併用型の3つに分類し評価した（図3）。本明は「誰もがストレスフルな出来事に出会えば、この2つの機能をうまく使い分けるものである」と述べている。本研究の場合もこの2つの機能を様々に用いていた。又、自尊感情の高さは4人が平均値であった為、評価できなかった。そこで、自尊感情がいちばん低くマイナスイメージの強かったAさんの事例（図3の症例A）を通し考察していくことにした。

Ⅳ. 事例紹介（図4）

1. 患者 Aさん 43歳、女性。
2. 疾患 右乳癌
3. 職業 専業主婦で、2児の母親
4. アンケートの結果

ストレス因子は退院後の事と家庭の事であった。対処方法は、外来時情動的対処法を用いていたが、入院1週間後、手術前日には他者に協力を求める、情報を集めるという問題解決的対処法も加わり両者併用型に変化した。

Ⅴ. 考 察

ストレス因子が社会的な項目となった理由は、入院中に娘が代わりとなって家族の世話をしてくれるのか、夫や息子は娘に協力してくれるのか、又、手術を受け、利き手に支障を来しても、今まで通り食事や洗濯、掃除をきちんとしていく事が出来るのだろうかという思いからだと考える。中根らは、「患者には、疾患という<健常でない>状況を抱えながら、なお生活者として社会の中でなんらかの役割を果たしていかなければならない（あるいは果たしていきたい）という側面がある。」と述べている。Aさんの場合も、主婦という役割があるため、目前にある手術だけでなく、今後の生活という視点でとらえ、術前から退院後の生活にストレスを感じていると考える。

対処方法に変化が見られたのは、環境の変化が大きいのではないかと考える。入院したことにより、今まで接することのなかった医療者と関わりと共に、同じ疾患を持った患者さんとの出会いもある。又、日常生活の慌ただしさからも解放され自分を見つめる時間も得ることができる。その中で、Aさんは病気について改めて考えることができたので、専門者や同病者が重要な要素となっていったのではないかと考える。

VI. 終わりに

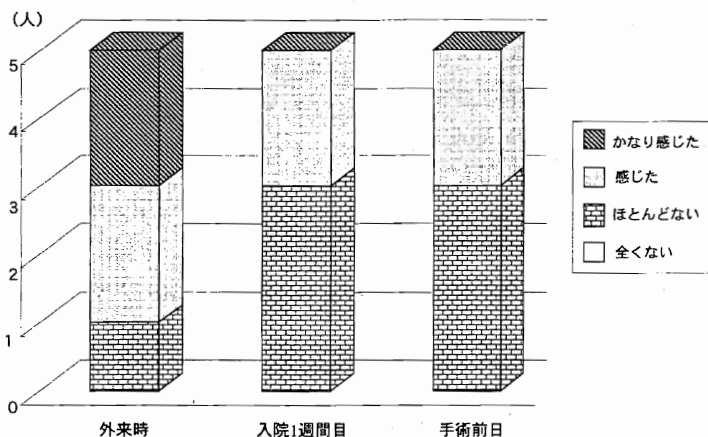
私達は今まで、患者さんは術前に手術そのものがストレスであり、手術後は術後経過や退院後の生活にストレスを感じていると考えていた。しかし、告知を受けた患者さんにとって、手術は今後の生活を考える中で、自らの役割を果たしながらよりよく過ごすための一手段にすぎないのではないかと考える。その現れとして、外来時から手術後の生活に対して不安を抱きストレスを感じているのではないだろうか。これらの結果を踏まえ、今後私達は、癌患者さんのこれからの生活を知ろうというところから出発する必要があると考える。

参考文献

- 1) 河野友信：ストレスの科学と健康，pp.148～153，金原出版，1987
- 2) ラザルス：ストレスの心理学，実務教育出版，1991
- 3) 菅佐和子：SE (Self-Esteem) について，看護研究，Vol.17，No.2，pp21～27，1984

引用文献

- 1) 小島操子：がん医療の動向とがん看護の専門性，臨床看護8，pp1361～1368，1995
- 2) 本明 寛：Lazarusのコーピング（対処）理論，看護研究，Vol.21，No.3，pp17～22，1988
- 3) 中根ら：QOLの枠組み，がん看護，1巻1号，p11，1996



(図1) ストレスの有無

(表 1)

入院された皆様へ

手術を受けられる患者さんの、精神的な負担は大変大きいと思えます。そのため、私達看護婦は、患者さんの話を聞き、相談にのり、少しでも不安に思う気持ちをやわらげたいと考えています。

しかし、実際には、患者さんの気持ちの変化を充分に知ることが難しく、ご家族と相談されたり、患者さん自身で解決されたりする場合があります。

そこで今回、手術を受けられる患者さんの気持ちの変化を知り、今後の関わり方に、生かしていきたいと考えました。

入院時、及び、手術前の説明をするとき、アンケートに記入していただきたいと考えています。全部で3回、治療や検査にさしかえのない範囲で、おこなわせていただきます。

少しでも、患者さんの気持ちにそって、お話を聞き、お世話をさせていただきますので、ご協力お願い致します。

B病棟 6階 詰所

(表 2)

アンケート用紙 (1)

- あなたは、手術が必要と聞いたとき、それに対してストレスを感じましたか。
当てはまる項目に○を1つつけて下さい。

かなり感じた 感じた ほとんどない 全くない

- 全くないと答えの方以外にお聞きます。
あなたにとって今、ストレスと感じているものは何ですか。
以下の内容からお答え下さい。(複数回答可)

《ストレスと感じているもの》

- ① 夜が寝れない事
- ② 食事が増えたり減ったりしている事
- ③ 身体的症状(胃が痛い、頭が痛い)がある事
- ④ お金の事
- ⑤ 仕事の問題(残してきた仕事の事等)
- ⑥ 新しい環境への適応(同室者、医者、看護婦との関係)
- ⑦ 地域の問題(近所付き合い等)
- ⑧ 退院後の事(いつ入院前の生活にもどれるか等)
- ⑨ 家庭の事(子供や妻や夫)
- ⑩ その他(具体的に書いて下さい)

(表 3)

アンケート用紙 (2)

アンケート用紙 (1) の2で選択した項目全てに対する解決法を下記から選び○をつけてください。

(複数回答可)

ストレスを感じているもの	① 夜が寝れない事	② 食事が増えたり減ったりしている事	③ その他の身体的症状	④ お金の事	⑤ 仕事の手	⑥ 新しい環境への適応	⑦ 地域の問題	⑧ 退院後の事	⑨ 家庭の事	⑩ その他
ストレス解消法										
ストレスを和らげる方法を実践する (家族の専責を頼る等)										
問題についてじっくり考える (寝ること、病院の事、手術の事)										
友人、家族、医者、看護婦に相談し協力を求める										
信頼を築く (本を読む、他の患者やスタッフに聞く)										
質問をしをする (テレビ、新聞、雑誌等)										
我慢する										
仕方がないとあきらめる										
時間が解決してくれる (時が経つのを待つ)										
自分とは異なる人のせいにする										
ストレスと関わらないようにする										
聞き流す										
神、仏に祈る (お守り)										
やけ酒、むちゃいをする										
人や物に当たる										
スポーツ、趣味を楽しむ										
その他 (具体的に)										

(表 4)

アンケート用紙 (3)

次の各項目について、あなた自身にどの程度当てはまるか、尺度上の該当する項目に○をつけて下さい。

- 私は全ての点で自分に満足している。

そ	や	や	ち	ち
う	や	う	が	が
- 私はときどき自分がまるでだめだと思っている。

--	--	--	--	--
- 私は自分にはいくつかみどころがあると思っている。

--	--	--	--	--
- 私はたいいてい人がやれる程度には物事ができる。

--	--	--	--	--
- 私にはあまり得意に思うことがない。

--	--	--	--	--
- 私は時々、確かに自分が役立たずだと感じる。

--	--	--	--	--
- 私は少なくとも、自分が他人と同じレベルに立つだけの価値がある人間だと思う。

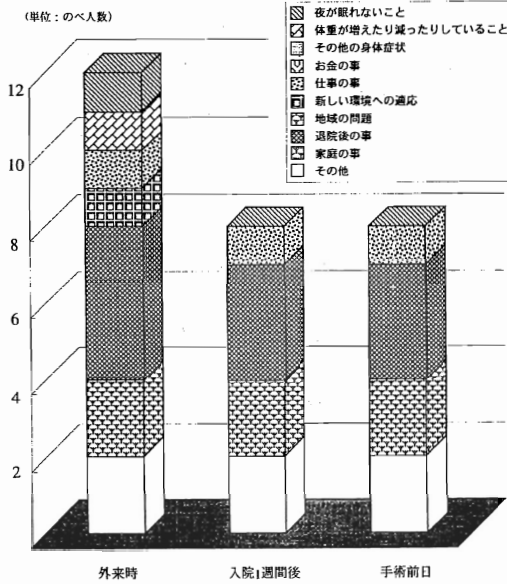
--	--	--	--	--
- もう少し自分を尊敬できたならばと思う。

--	--	--	--	--
- いつでも自分を失敗者だと思いがちだ。

--	--	--	--	--
- 私は自分に対して前向きな態度をとっている。

--	--	--	--	--

ストレス対応パターン



(図2) ストレス因子

	外来時	入院1週間後	手術前日	自尊感情
A	☆	◎	◎	2.2点
B	◎	◎	◎	3.8点
C	☆	☆	☆	2.9点
D	◎	☆	☆	2.9点
E	☆	☆	☆	2.5点

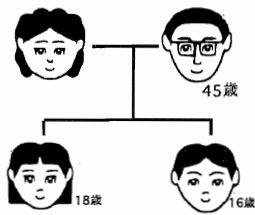
◇ 問題解決的対処型	ストレスを和らげる方法を実施する 問題についてじっくり考える 友人、家族、医者、看護師に相談し協力を求める 情報を集める
☆ 情動調整的対処型	気ばらしをする 我慢する 仕方がないとあきらめる 時間が解決してくれる 自分は悪くないと人のせいにする ストレスと思わないようにする 開き直る 神、仏に祈る やけ酒、むちゃくいをする 人や物に当たる スポーツ、趣味を楽しむ
◎ 両者併用型	

(図3)

事例紹介

Aさん

年齢: 43歳
 性別: 女性
 疾患: 右乳癌



《プロフィール》

夫と子供2人の4人暮らし。
 専業主婦であり、家庭において家事、
 子育てという大きな社会的役割を持つ
 ている。

	ストレス因子	対処方法
外来時	退院後の事	時間が解決してくれる
	家庭の事	ストレスと思わないようにする
入院1週間後	退院後の事	他者に相談し協力を求める
	家庭の事	時間が解決してくれる 他者に相談し協力を求める 情報を求める
手術前日	退院後の事	他者に相談し協力を求める 情報を求める 時間が解決してくれる ストレスと思わないようにする
	家庭の事	他者に相談し協力を求める 情報を求める ストレスと思わないようにする

(図4)